

## 第2回これからの北海道立近代美術館検討会議

日時：令和4年（2022年）3月1日（火）10：00～

場所：Web会議システム（ZOOM）

### 次 第

- 1 開会
- 2 議事
  - (1) 近代美術館の活動の検証
  - (2) その他
- 3 閉会

#### ■ 配付資料

- ・資料1 近代美術館の活動の検証
- ・資料2 今後の進め方
- ・参考資料 近代美術館利用者アンケート結果

# 議 事

---

## 第2回これからの北海道立近代美術館検討会議 出席者名簿

### ○ 構成員

所 属	職	氏 名
株式会社haku	代表取締役	<small>きくち たつのり</small> 菊地 辰徳
北海道大学	名誉教授	<small>きたむら きよひこ</small> 北村 清彦
北海道教育大学釧路校	教 授	<small>ささき つかさ</small> 佐々木 幸
北海道大学大学院文学研究院	教 授	<small>ささき とおる</small> 佐々木 亨
札幌芸術の森美術館	館 長	<small>さとう ともよし</small> 佐藤 友哉

(敬称略、五十音順)

### ○ 道教委

所 属	職	氏 名
教育庁	教育部長	<small>いけの あつし</small> 池野 敦
	生涯学習推進局長	<small>あいうち しゅうじ</small> 相内 修司
教育庁生涯学習推進局 文化財・博物館課	課 長	<small>たかみ りか</small> 高見 里佳
	課長補佐	<small>えんどう しんり</small> 遠藤 新理
	主 幹	<small>ときみ ゆき</small> 土岐美由紀
	主 幹	<small>こまつ ともこ</small> 小松 智子
	主 査	<small>ふくしけん たろう</small> 福士兼太郎
北海道立近代美術館	副 館 長	<small>さくらい やすお</small> 櫻井 康雄
	学芸副館長	<small>とまな まこと</small> 苫名 真
	総務企画部長	<small>とよむら ひろし</small> 豊村 洋
	学芸部長	<small>なかむら せいじ</small> 中村 聖司
	学芸統括官	<small>くめ あつし</small> 久米 淳之
	総務企画課長	<small>いまむら</small> 今村ちぐさ

# 近代美術館の活動の検証

## 1 作品の収集・保存

### (1) 収集方針

昭和48年、近代美術館の開館に向け、「新美術館収蔵作品基本方針」を策定し、系統的・計画的な作品収集を進め、その後、昭和57年の旭川美術館設置をはじめとして、昭和63年に道立美術館5館目の帯広美術館の設置が決定したことを契機に、道立美術館相互の連携と相乗的な機能を高めるため、「北海道立美術館作品収蔵計画」（平成元年～平成10年）を策定。その後、10年ごとに策定し、現在は「第4期北海道立美術館等作品収蔵計画」（令和元年～令和10年）に基づき収集している。

北海道出身の文化勲章受章者（山口蓬春、片岡球子、岩橋英遠）や全国区の知名度を得た北海道の優れた作家の作品のほか、「エコール・ド・パリ」コレクションや「ガラス工芸」コレクションは国内有数の質であり、全国の公私立美術館からの要望により巡回展が開催されるなど、地域性と国際性を併せ持つ特色あるコレクションを形成している。

### ■ 収集方針と代表的な作品

収集方針	代表的な作品
○ 北海道の美術	岩橋英遠「道産子追憶之巻」
○ 日本近代の美術	横山大観「秋思」
○ エコール・ド・パリ	マルク・シャガール「パリの空に花」
○ ガラス工芸	ルイ・コムフォート・ティファニー「ランプ・きばなふじ」
○ 現代の美術	ブリジット・ライリー「アレスト I」

※その他の特色あるコレクションとして、16世紀から20世紀にかけてのヨーロッパの版画、歌川国貞を主とする江戸後期の浮世絵等がある。

### (2) 作品の収集方法

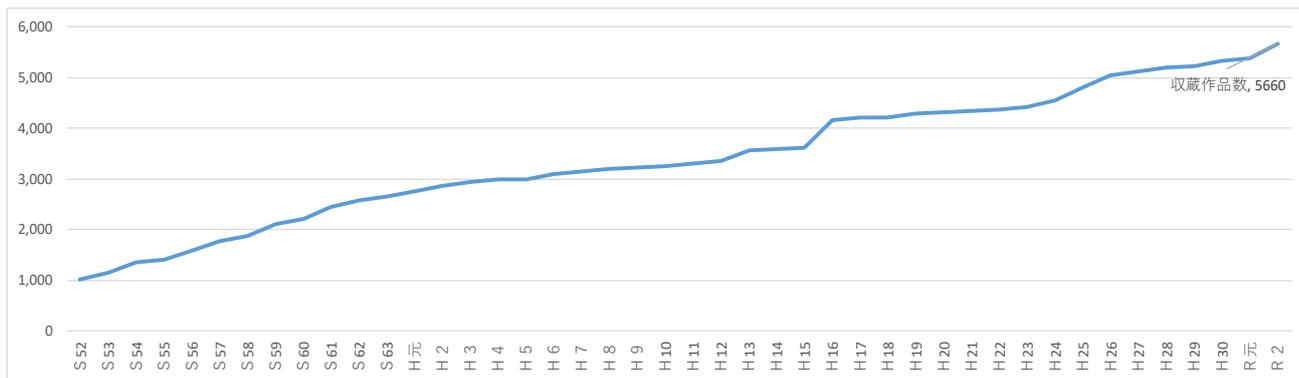
作品の収集方法は、購入（平成5年度以降は美術品取得基金による）のほか、受贈も行っており、散逸が懸念される個人所有の貴重な作品の寄贈先としての役割も担っている。

### ■ 近代美術館の種類別収蔵作品数（R3. 3. 31現在）

（単位：点）

油 彩	日本画	水彩・ 素描	版 画	彫 刻	工 芸	デザイン	写 真	合 計
822	281	365	2,080	112	1,718	231	51	5,660

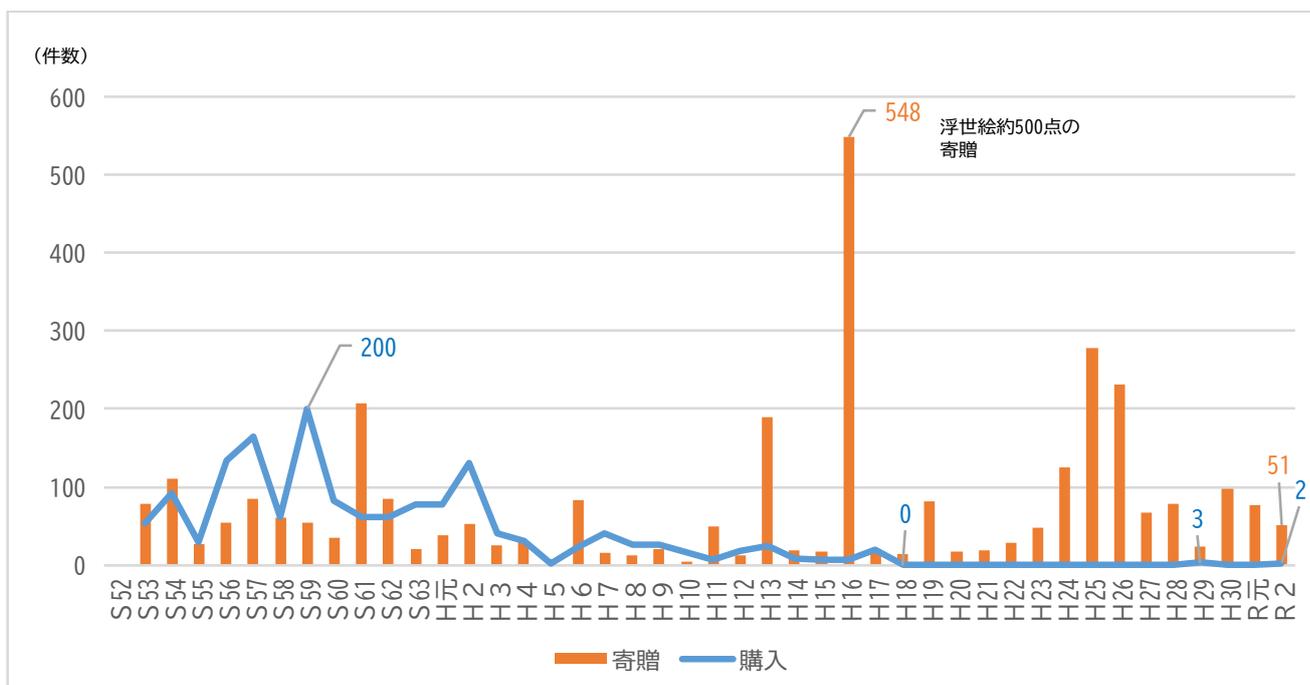
## ■ 収蔵作品数の推移



## ■ 北海道美術品取得基金及び購入の状況

基金の概要	根拠	北海道美術品取得基金条例（平成5年3月31日条例第6号）
	目的	道立美術館、釧路芸術館の事業の用に供する美術品を円滑かつ効率的に取得するため
	基金額	5億円

## ■ 寄贈・購入の推移（近代美術館）



### (3) 収蔵作品の有効活用

道民の財産である収蔵作品については、館内における常設展示のほか、館外での移動美術館や出張アート教室における活用により、より多くの道民が収蔵作品に触れることができる機会の創出に努めている。

さらに、道立施設間での収蔵作品の貸借、道内及び国内外の美術館等からの要望に応えた貸し出しを行い、当該美術館等の展覧会の開催に貢献するとともに、北海道美術の紹介や道立美術館のPRにつなげている。

## ■主な作品貸出先

区 分	主な貸出先
道 内	各道立美術館、札幌芸術の森美術館、市立小樽美術館、木田金次郎美術館、神田日勝記念美術館、釧路市立美術館、網走市立美術館、小川原脩記念美術館、北海道美術協会、六花亭、北海道銀行、個展等
道 外	国立美術館・博物館、都道府県立美術館、市区町村立美術館、 私立美術館（サントリー美術館、ブリヂストン美術館、そごう美術館等）、 海外美術館（ロダン美術館、パリ市立近代美術館、デンマーク国立美術館、フィンランド国立美術館等）

### (4) 課題

#### ○ 作品購入の減少

美術品取得基金による購入は、平成18年度から平成26年度までは購入がなく、平成17年以前に比べ購入件数が減少し、主体的・計画的な収集による系統的なコレクションの形成に支障が出ている。

#### ○ 収集方針の検討

近年のアートシーンや社会の変化など、美術館を取り巻く状況に合わせた収集方針について検討する必要がある。

#### ○ 収蔵庫の狭隘化

昭和62年に第2収蔵庫を増築したものの、収蔵スペースが大幅に不足し、収蔵庫内の廊下や展示室の一部を収蔵庫としている状況であり、今後の収集活動及び常設展示に影響がある状況となっている。

## ■収蔵庫面積

時 期	面 積	摘 要	収蔵作品数
開館（S52）	587.0㎡	第1収蔵庫	916点
増築（S63）	810.2㎡	第2収蔵庫223.2㎡	2,587点
現在（R3）	810.2㎡	展示室108㎡を収蔵庫に代用	5,660点

#### ○ 収蔵環境の悪化

厳密な温湿度管理が求められる収蔵庫において老朽化による空調機のトラブル等の発生や当初からの断熱等の不具合による結露などがあり、収蔵環境は万全の状態ではない。

#### ○ 作品修復の停滞

作品を健全な状態で保存するためには、修復が必要だが、計画的な修復ができていない。

## 2 調査研究

### (1) 調査研究

美術作品に係る調査研究は、美術館の根幹的業務の一つである。美術の専門家である学芸員は、その専門性を活かし、美術全般あるいは収集作品に関して現地調査なども行い、道民の幅広い興味関心に応える

多彩なコレクション展や、ゴッホ展・ルノワール展といった大規模国際展、国宝展などを開催するなど、その成果を展覧会の企画や展示内容、図録等で広く社会に還元している。

また、神田日勝や木田金次郎など、現在では全国区の知名度がある優れた道内作家を発掘し、本道の美術史の形成に寄与し、文化の振興を図っている。

## (2) 情報交換・専門性の向上

道内外の美術館の学芸員との情報交換を通して、学芸員の専門性や企画力の向上を図っている。

## (3) 他館への指導助言

道内の市町村立や私立美術館に対し、作家・作品に関する情報提供や作品の取り扱いなどについて指導的役割を果たしている。

## (4) 課題

### ○ 調査研究の成果を還元できる機会の減少

調査研究の成果を発揮できる最大の機会である自主企画展のほか、所蔵品の企画展示である常設展の実施回数が減少している。

また、調査・研究の成果を広く社会に還元する媒体であり、展覧会の記録でもある図録についても特に自主企画展において、作成が困難になっている。

## 3 展覧会

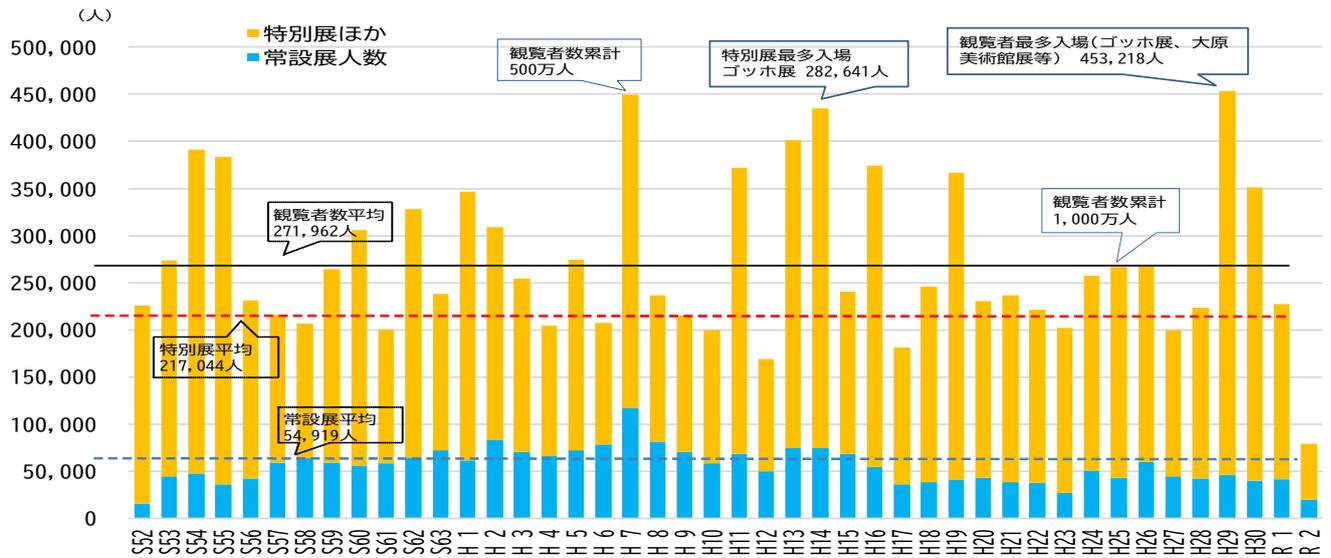
### (1) 常設展示

近代美術館では、常設展示室において年数回、展示替えを行いながら、テーマ性を持った収集作品の紹介を行っている。視覚障害者の鑑賞のための「ふれるかたち」展（彫刻など立体作品に手で触れて鑑賞）を長年行ってきたほか、収蔵作品の中から、1点を掘り下げて展示・解説する「この一点を見てほしい。」など、意欲的に取り組んでいる。

### (2) 特別展示

特別展示においては、年間4～6回、近代美術館の収集方針である優れた「北海道の美術」に関する展覧会のほか、さらに幅広い視野の元、報道機関等との共催により、国宝や重要文化財を含む古美術展をはじめ、国内はもとより世界各国の多彩で優れた芸術を紹介する大規模な展覧会を開催している。

## ■ 観覧者数の状況



### (3) 移動美術館

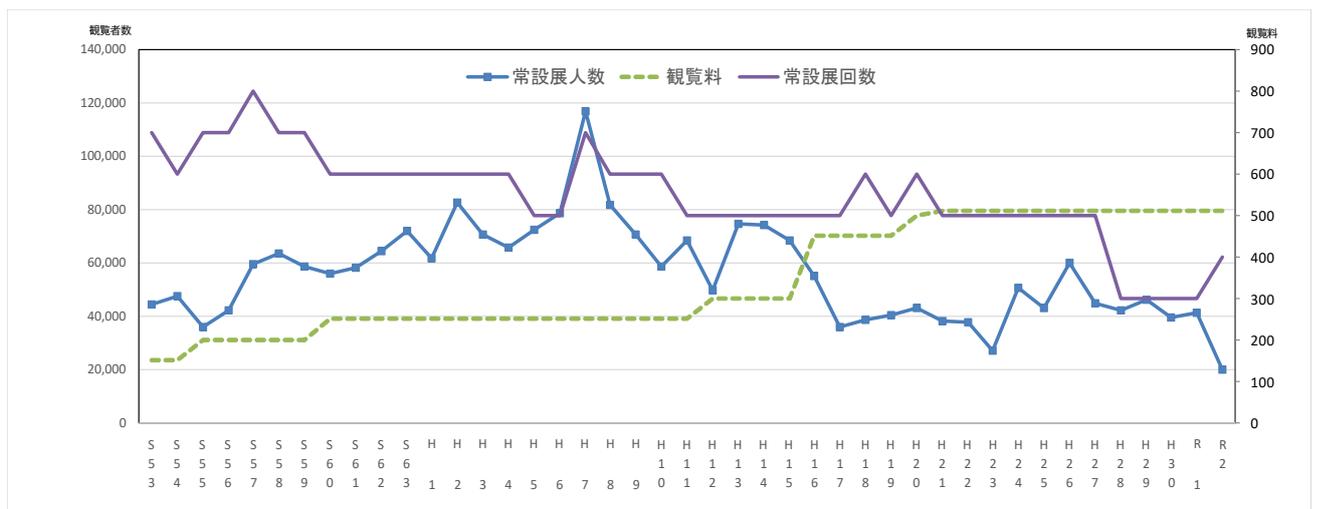
近代美術館では、地理的条件等により、美術作品の鑑賞機会が少ない地域の方々へ鑑賞機会の提供を行うため、道内市町村を訪問する移動美術展（ぐるっと美術館）を昭和53年の開館時から実施し、これまで離島を始め、102市町村で開催している。

### (4) 課題

#### ○ 常設展観覧者数の減少

常設展示では、ここ15年は観覧料の値上げや展示替え回数の減などもあり、以前に比べ観覧者数が減少している。

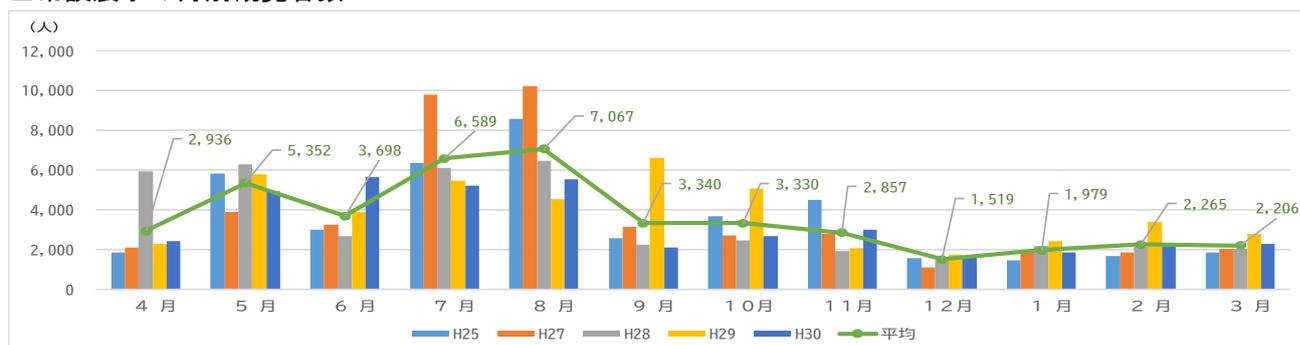
#### ■ 常設展示の年間観覧者数



#### ○ 観覧者の時期的な偏り

例年、冬期、特に12・1月の入場者が少ない傾向がある。

## ■常設展示の月別観覧者数



### ○ 収蔵作品の有効活用機会の減少

収蔵作品の活用機会である常設展示の回数が減少し、道民が多くの収蔵作品に触れることができる機会が減少している。

## ■常設展示回数（1年あたり）の推移

区分	S52～S59	S60～H10	H11～H27	H28～R元	R2～
回数	7	6	5	3	4

### ○ 来館者の多様なニーズ

観光客に対しては、一度きりの来館となる可能性が高いため、近代美術館でしか見ることのできない代表的なコレクションを常時展示する必要があるが、一方で、道民、特に地域住民に対しては、常に新しいテーマの展示が求められている。現在の常設展示室の面積では、双方のニーズに応えることができない。

### ○ 実行委員会展のあり方の検討

実行委員会展において、これまでも報道機関等と国内外の優れた芸術を紹介する大規模な展覧会を開催してきたが、収益が北海道の収入とならないなど、あり方について検討する必要がある。

### ○ 移動美術館の開催会場数の減少

平成13年度までは5会場で開催していたが、毎年市町村からの開催希望（H28～R2平均15市町村）はあるものの、年々減少し、令和2年は1会場であった。

### ○ 適切な展示環境の維持が困難

施設の構造上の問題や設備の老朽化により、温湿度など作品に影響を与えるおそれがあるなど、適切な展示環境の維持が困難になっている。

### ○ 展示用什器の保管場所の不足

作品展示のためのケースや台、パネルといった展示用什器の保管場所が足りず、通路等に置いている。

## 4 教育普及事業

### (1) 教育普及事業

近代美術館は、大人から子どもまで道民の文化的教養を高めるための教育機関としての役割を果たすとともに、道民に美術館を身近な存在として親しんでもらうため、収集作品や展覧会に関する様々な講演会、講座、ワークショップ等を実施している。大人向けの講演や講座などのほか、夏休みなどには親子を対象にした事業を実施するなど、幅広い世代に向けた教育普及の取組を行っている。

最近では、自宅等で展覧会が楽しめる動画の配信や、来館が困難な障害児童生徒に向けたオンライン授業などの取組も行っている。

#### ■主な教育普及事業（令和元年度）

区 分	内 容 等	参加者数
特別展関連事業	講演会、学芸員による見どころ解説など	3,615
近美コレクション関連事業	美術講座、アーティストトーク、ぐるっと3館鑑賞ツアー（近美、三岸、知事公館）	170
ギャラリー・ツアー	ボランティアによる近美コレクションの展示解説	2,336
ミュージアム・トーク	学芸員による近美コレクションに関する講話	329
親子・子ども向け	夏のワークショップ、こども鑑賞ツアー	81
コンサート	近美や他団体主催による展示に関連したコンサート	610

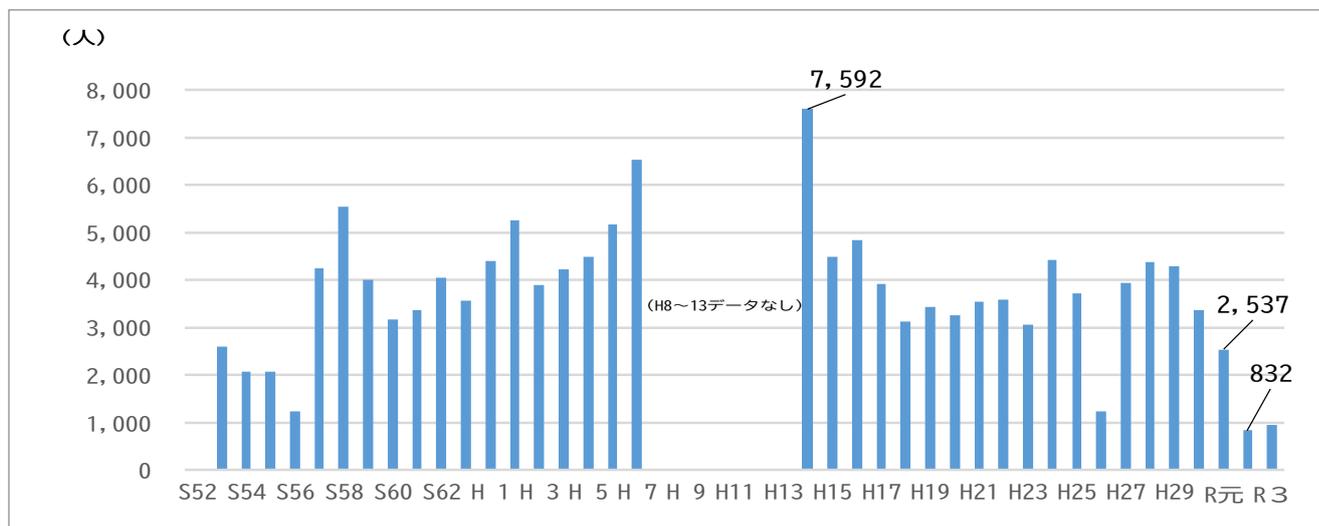
### (2) 学校連携事業

#### ア 学校との連携

近代美術館では、総合的な学習の時間や修学旅行等における学習の場の提供のほか、学芸員が美術館の収集作品を小中学校等に持参し、児童生徒に作品を見せながら鑑賞の手ほどきを行う「出張アート教室」や夏季休業期間等における教員向けの研修を実施し、学校との連携強化を図っている。

学校の授業等で活用できる鑑賞学習支援ツールを平成31年度に作成し、学校等へ貸し出している。

#### ■小中学生の常設展示（近美コレクション等）の来館者数の推移（S52～）



## イ 大学等との連携

大学生や専門学校生等が教育活動の一環として美術館を利用して、芸術作品を鑑賞する機会を持ち、芸術文化を理解する能力を高めることを目的として、大学等が事前に年間観覧料を支払うことにより、在籍する学生は観覧料を負担することなく、常設展の観覧等ができる「北海道立美術館キャンパス・パートナーシップ制度」を導入した。

また、道立美術館では、大学の依頼により学芸員資格認定のための博物館実習生の受け入れを行っており、昭和52年から令和2年度まで731名を受け入れている。

## (3) 生涯学習の場としての役割

生涯学習の場として、上記教育普及の中で実施される講演や解説などのほか、美術関連の図書や映像資料を提供するARSコーナーの設置、道民カレッジでの講座など、様々な取組を行っている。

## (4) 課題

### ○ 教育普及事業の再構築

開館以来、「地域に開かれ、地域の美術文化を拓く」ことを理念に掲げて、子ども向け展覧会の開催等、全国的にも先進的な教育普及活動を展開してきたが、同展を平成30年度で廃止するなど、近年、実施事業が減少しており、ICTの活用など、教育普及事業の再構築を検討する必要がある。

### ○ 子どもたちが美術に触れる機会の提供

小中学校の授業における図工美術の指導時間数の減少など、子どもたちが美術に触れる機会が少なくなっていることから、機会の提供について検討する必要がある。

### ○ 教育普及のための施設設備の不備

講演会や講座などを行う講堂は、バリアフリー化など来場者の動線への配慮が不足していることや、映像室も併せて、映像・音響・照明などの設備が老朽化しているほか、図書や映像資料を提供するARSコーナーは、開架・閲覧場所が狭いなど、良質な教育普及の提供ができていない。

## 5 利用者との関係

### (1) 来館者アンケート

近代美術館の活動や施設等について、利用者にアンケート調査を実施した結果、近美コレクションについては約60%、特別展については約70%の人が「満足」「やや満足」と回答しており、館内表示や清潔さ・雰囲気についても、70%以上の人が「満足」「やや満足」と回答している。

また、図書コーナーやミュージアム・ショップ、喫茶・レストランについても、利用した人の半数以上が「満足」「やや満足」と回答している。

調査時期	平成30年度(2018年度)～令和2年度(2020年度)
回答者数	3,269人

※アンケート結果の詳細は、参考資料「近代美術館利用者アンケート結果」参照

## (2) 広報

展覧会等の広報は、ホームページをはじめ、ポスター・リーフレットの配付、各種情報誌への掲載などを行っている。そのほか令和3年にホームページの見やすさやわかりやすさを目指して全面改修したほか、動画やツイッター、FacebookなどのSNSを活用し、展覧会の見どころなども発信している。

## (3) 課題

### ○ 施設の老朽化等

常設展示室内で2階に上がるためには階段しかない、トイレが古い・狭い・足りないなどの苦情も多く、ボランティアの待機・活動場所が狭いなど、施設の老朽化や当初の設計に対する要望が出ている。

### ○ 来館者のニーズへの対応

来館者のニーズなどを分析し、これからの展覧会活動を検討する必要がある。

## 6 館運営

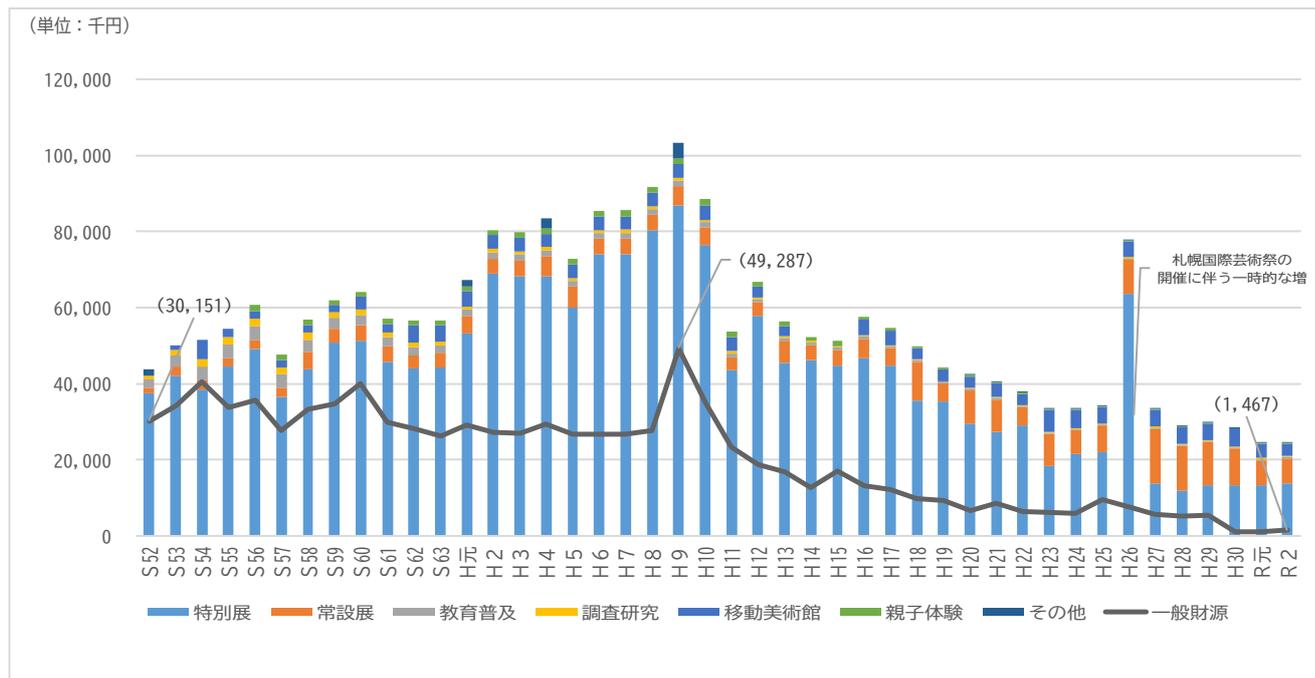
### (1) 現状

道教委が直営で、館長（非常勤）ほか職員23名（学芸系職員14名）で運営しており、清掃・警備・設備管理は外部委託している。

予算は、一般財源のほか、観覧料・貸室料・施設使用料を財源としている。

レストランは公募を行い民間事業者へ施設使用料を徴収して貸付、ミュージアムショップは北海道美術協力会に施設使用料を徴収して貸付している。

### ■ 予算の推移



(2) 課題

○ 予算の縮小

事業費の縮小により、展示替え回数の減少や子ども向け特別展の廃止を余儀なくされているほか、観覧者数の減少により収入減となっている。

○ 増収策の検討が必要

事業費の財源確保のためにも、増収策を検討する必要がある。

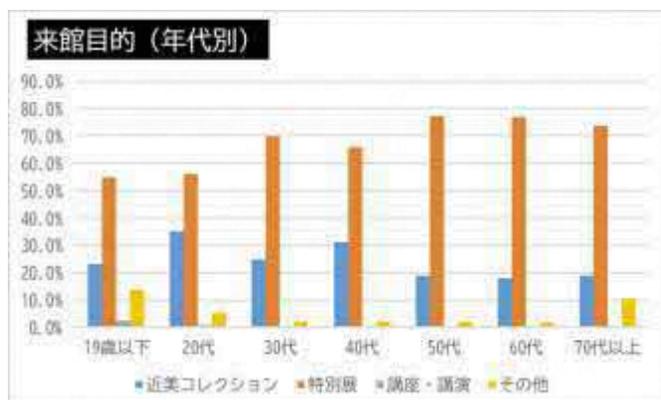
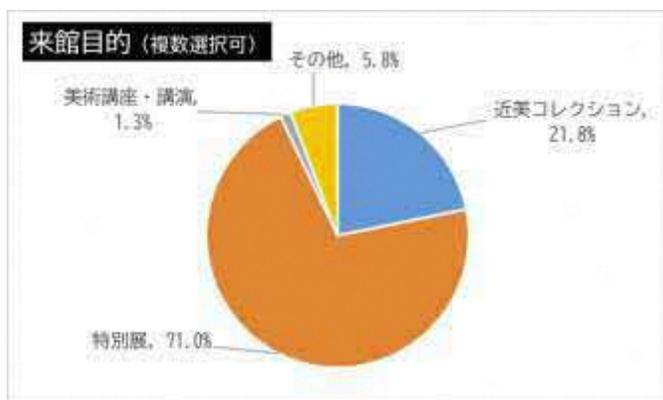
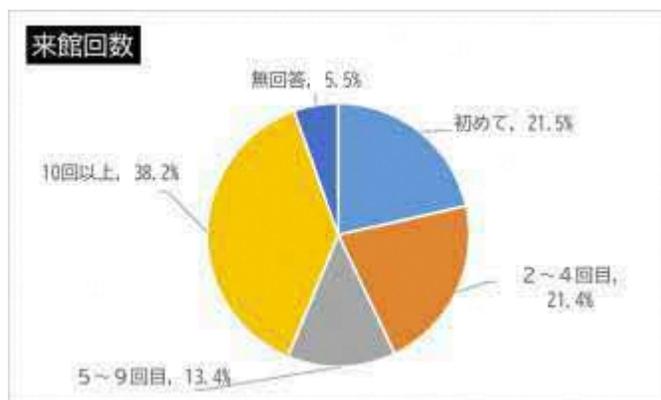
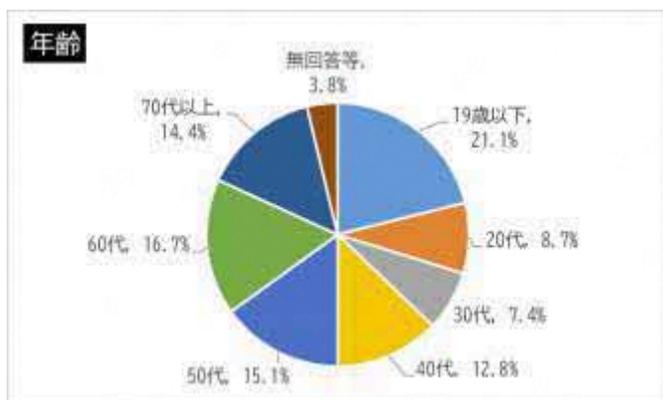
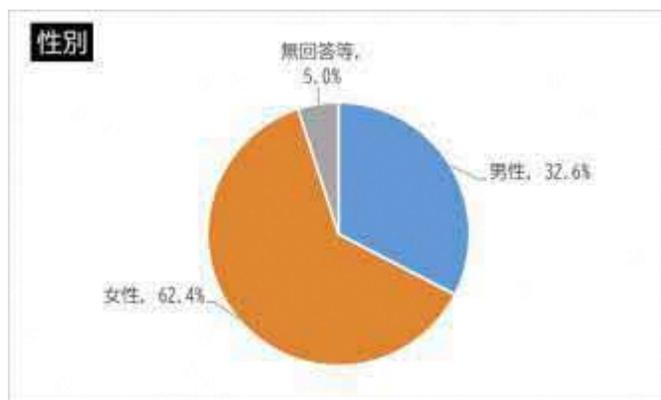
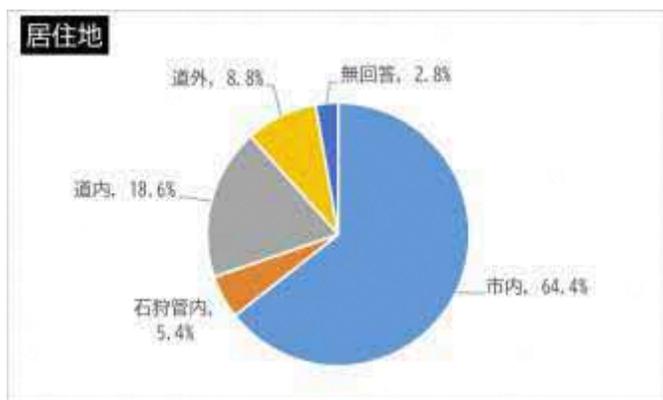
# 今後の進め方

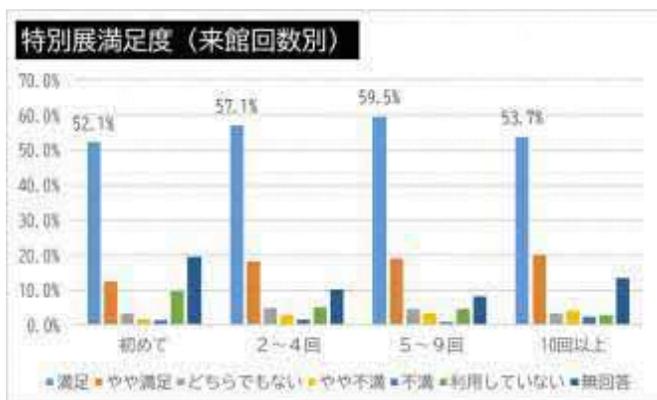
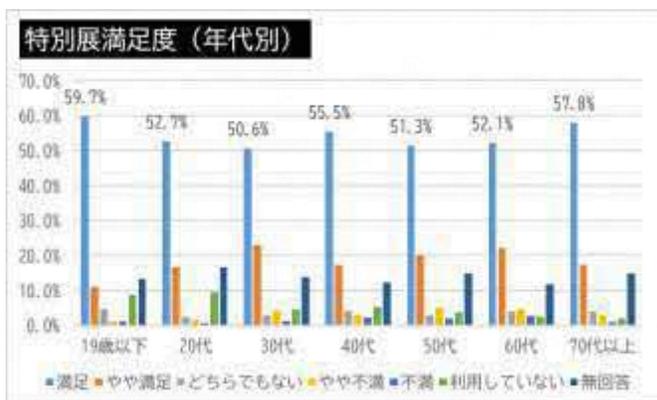
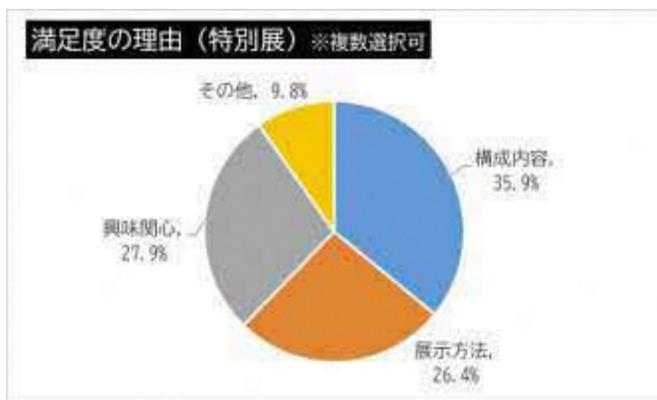
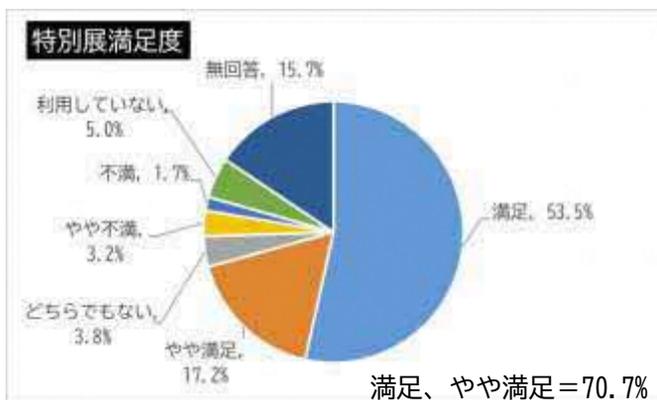
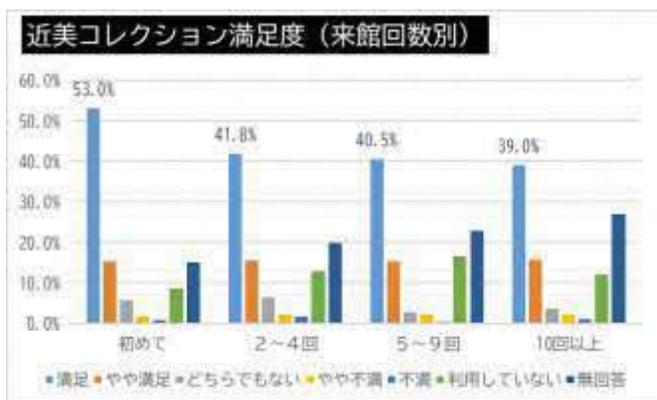
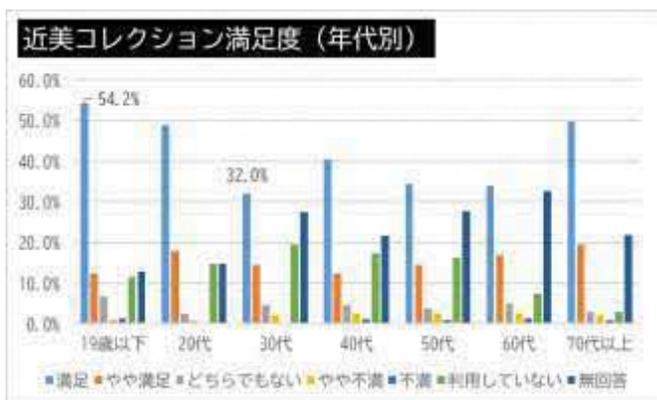
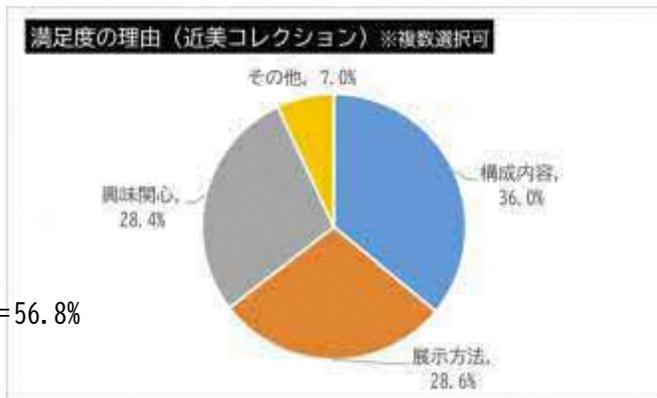
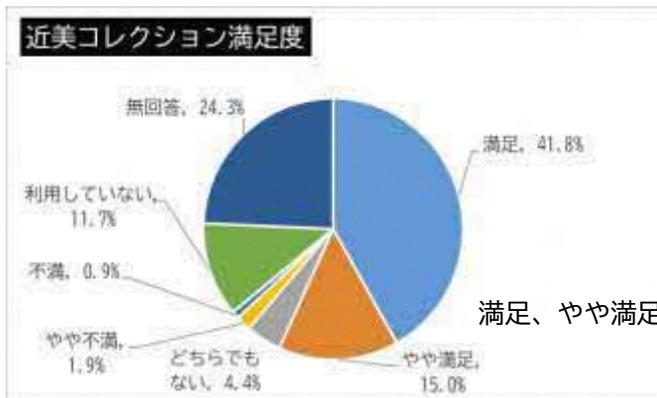
区 分	時期 (予定)	検 討 内 容	
		美術館活動	施設整備のあり方
第1回	R 4.2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの経過、今後の進め方</li> <li>○ 現地調査</li> </ul>	
第2回	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの美術館活動の検証</li> </ul>	
第3回	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後求められる役割</li> </ul>	
第4回	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 近代美術館のコンセプト、必要な機能</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>民間事業者等からの提案募集</b></p> <p>・美術館を整備する場所など ①現施設を活用 ②現敷地内での建替 ③移転</p>
第5回	8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設整備の考え方、運営方法のあり方</li> </ul>	
第6回	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 検討内容の整理</li> </ul>	<p style="text-align: center;">民間事業者等からの提案を踏まえ、 美術館利用者や近隣住民等、 <b>道民からの意見聴取</b></p>
第7回	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開催結果のとりまとめ、修正</li> </ul>	
第8回	R 5.2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開催結果（完成）</li> </ul>	

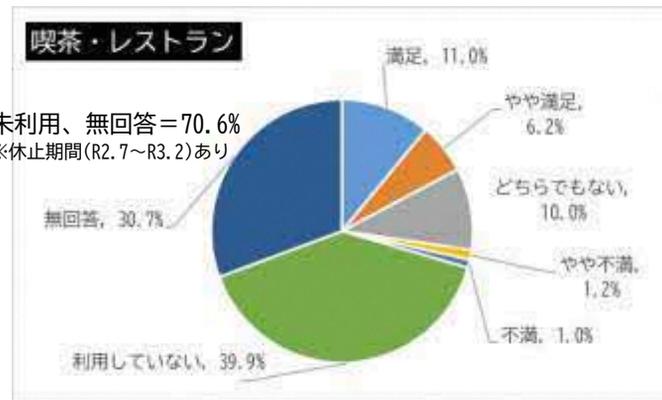
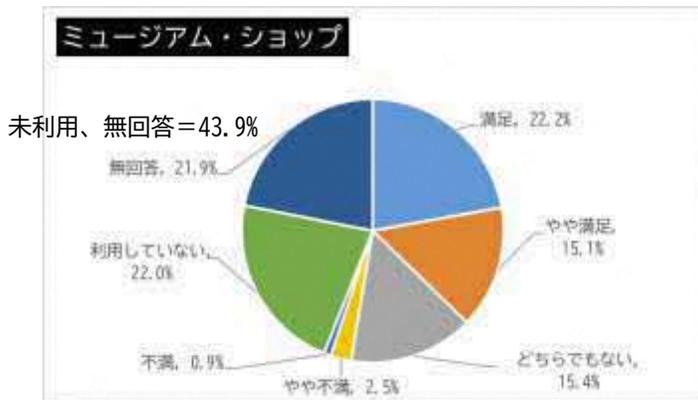
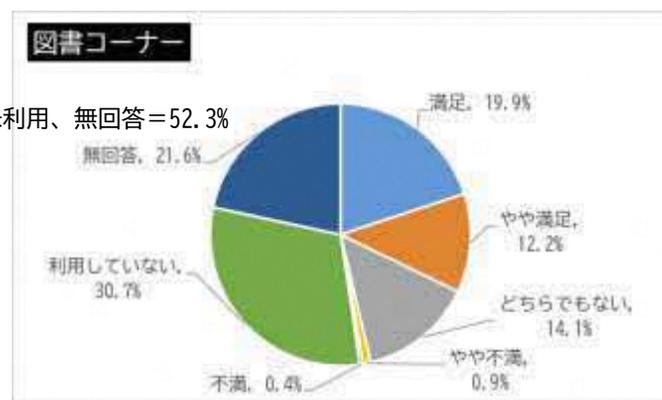
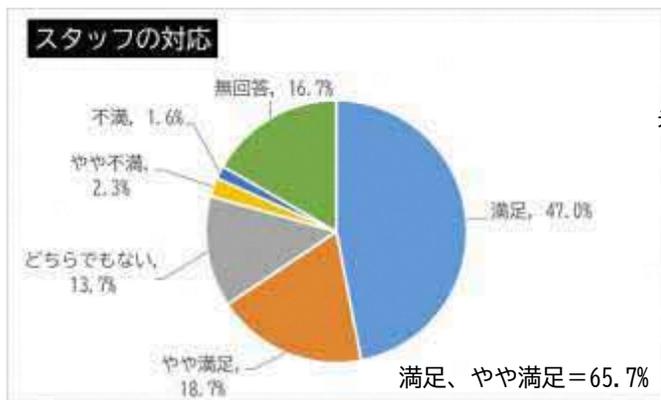
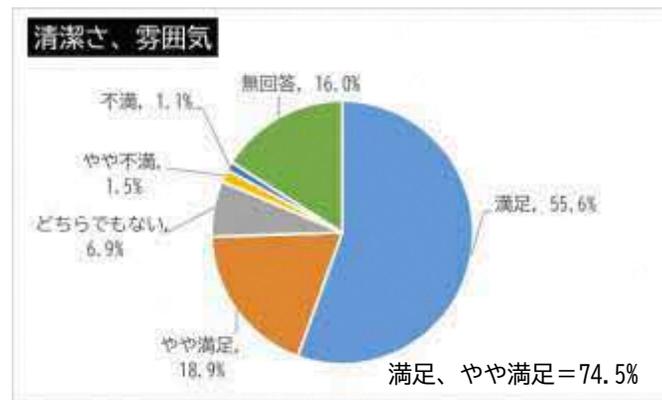
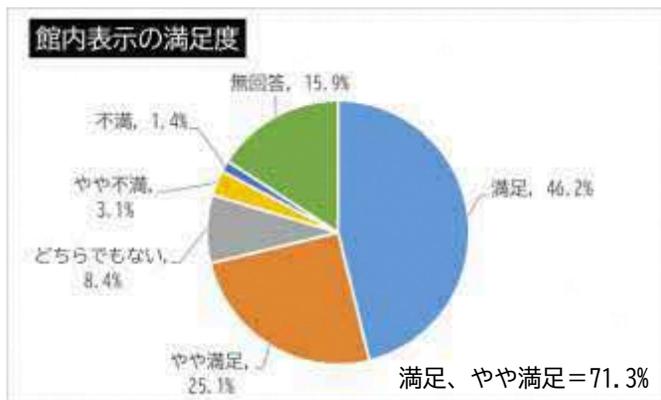
# 近代美術館利用者アンケート結果①

## ■ 調査方法

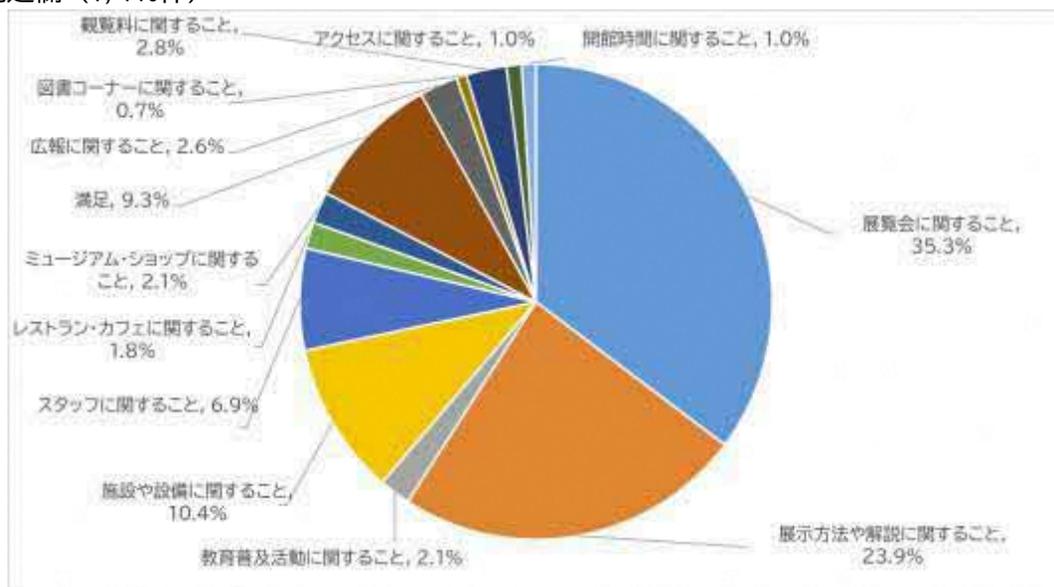
- (1) 時期 平成30年(2018年)4月1日～令和3年(2021年)3月31日
- (2) 対象者 近代美術館利用者（館内各所にアンケート用紙設置）
- (3) サンプル数 3,269人







■ 自由記述欄 (1,446件)



## ■ 主な御意見

## 展覧会に関すること

- ・〇〇展が見たい。  
※「北海道ゆかりの画家」、「近美の所蔵品をもっと」などの意見をはじめ、「北海道で見る機会のないもの」など様々な展覧会の希望がある。
- ・次の〇〇展を楽しみにしています。
- ・素晴らしい展覧会（企画）だった。
- ・北海道の風景画を常設展に加えてほしい。道内の画家を知りたい。
- ・近美の持っているコレクションをもっと見たい。展示物を増やしてほしい。
- ・近美の収蔵品が多いことを知らなかった。
- ・エコール・ド・パリの収蔵品を広く道民に知らせるべき。

## 展示方法や解説に関すること

- ・説明がわかりやすく勉強になり、美術に興味がありました。
- ・見せ方に工夫が感じられた。展示構成がおもしろかった。
- ・「この1点を見て欲しい。」の企画がよい（おもしろい）。
- ・音声ガイドが良かった。
- ・解説の字が小さくて読みづらい。
- ・作品展示が高すぎて、車いすからは見えにくかった。
- ・英語の解説が足りない。
- ・照明がガラスに反射して見えにくい。

## 施設や設備に関すること

- ・トイレが狭い、少ない、古い。
- ・雰囲気、居心地がよい。
- ・暑い／寒い
- ・各室に休むための椅子があるとよい。座る場所が少ない。
- ・暗くて作品が見えにくい。
- ・2階につづく階段がよい。
- ・寂れた残念な感じがする。
- ・全体的に古いし狭い。